

資料問題編③

命を守る防災への取り組み

問題1 [A]にあてはまる内容を、【資料1】を参考に、「よびかけ」、「避難」という言葉を使って、25字以上30字以内で答えなさい。

問題2 [B]には、「家族防災会議」で話し合う内容の二つ目として、家族がばらばらになっているときの避難について書いています。直美さんの班では、発表原こうに書いてある他の内容も参考に、[B]に書く内容を決めました。[B]の内容として最も適当なものを次のア～エの中から1つ選びなさい。

- ア 自宅に戻り、その後、必要な物を準備してから避難場所へ行く
- イ 家族の無事を確かめるため、自宅のある地域の避難場所へ行く
- ウ 災害時に自分がいる場所から最も近い避難場所へ行く
- エ 一人で行動すると危険なので、家族を探し出し、一緒に避難する

問題3 【資料4】の4つのグラフから読み取れることについて、適当なものを次のア～エの中から1つ選びなさい。

- ア 大地震について不安に感じている人は、約87%と高い。
- イ 食料を備蓄している人は、飲料水を備蓄している人より約15%割合が高い。
- ウ 非常持ち出し袋を準備していない人は、準備している人の4倍もいる。
- エ 食料・飲料水の備蓄は、ともに3～4日分程度の割合が最も高い。

問題4 下線部のように、先生が県民の防災意識の薄さに危機を感じていた理由を次の条件にしたがって説明しなさい。

条件

- *【資料3】、【資料4】から読み取ったことをもとにして書くこと。
- *100字以上120字以内で書くこと。

解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!



解説

問題1 発表原こうでは、他人からのよびかけが避難の判断基準となっていることを問題視し、自分の命は自分で守ることが大切だとしています。つまり、他人にたよらず自分の判断を大切にするということです。

問題2 「発表原こうに書いてある他の内容も参考に」とありますので、「津波でんでんこ」の教えを行動に生かすことを考えます。つまり、各自でんでんこになって一刻も早く避難することが大切だということです。家族を探したり、荷物を取りに戻ったりして被害に巻きこまれた例からも分かります。

問題3 グラフの数値を読み取る問題がよく出題されますが、正確かつ素早くしかも要領よく計算していくことがポイント。イでは、備蓄している人の割合を合計すると手間がかかりますので、逆に、用意していない方に着目して比べると、食料を備蓄の方が19.2ポイント少ないことから、その分食料を備蓄している人の方が多いこととなります。

問題4 県民の防災意識の薄さを資料3・4のグラフから読み取っていきます。まず、資料3で大分県の災害の危険か所数や発生件数の全国での位置づけといった現状を押さえ、次に資料4でそれに対する県民の意識の程度を見ます。そして、では、その意識に見合った対策をどの程度とっているのかを個別に見ていくと、そこに心配な要素が出てきますね。



解答例

問題1 他人からのよびかけがなくても自分で判断して避難すること

問題2 ウ **問題3** ア

問題4 大分県は、土砂災害危険か所数や土砂災害発生件数が全国の中でも上位であり、大地震に対して不安に感じている人の割合が高い。しかし、食料や飲料水の備蓄や非常持ち出し袋を準備している人の割合は、不安に感じている人の割合に比べて低いから。

〈水曜に掲載します〉



執筆・早稲田進学会(大島茂) イラスト・青山ゆういち

挑戦!

大分県立大分豊府中学校 2019年度
適性検査Ⅰから抜粋(一部改変)

直美さんの班では、「命を守る防災」をテーマに学習を進め、調べたことや自分たちの考えをまとめた発表原こうを班で作成しています。これを読んで、**問題1**～**問題4**に答えなさい。

【発表原こうの一部】

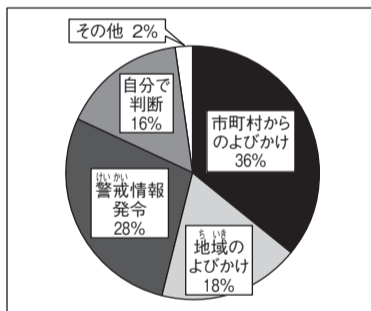
「命を守る防災」

「津波でんでんこ」という言葉は、過去に大きな津波を経験した東北地方に言い伝えられてきた言葉で、津波が来たら親も子も構わず、各自でんでんこになって一刻も早く高台に逃げなければ、命は助からないという教えがこめられています。近年、大雨による土砂災害や地震による災害など多くの災害が発生していますが、その際に、家族を探したり荷物を取りに行ったりして自宅に戻り、被害に巻きこまれたというニュースを聞いたことがあります。私たちは、「津波でんでんこ」などの教えから、あらためて、さまざまな災害時にとるべき行動を学ぶことが必要です。

【資料1】は県内の人々が「何を参考に避難の判断をするのか」を調査した結果です。このグラフからは、半数以上の人から他人からのよびかけがないと避難をしないことがわかります。しかし、災害時は、自分の命は自分で守る、つまり、[A]が大切です。

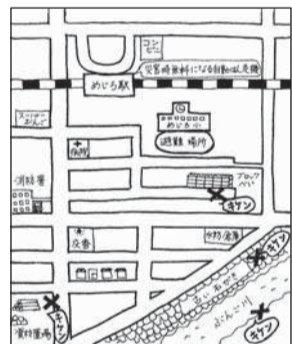
では、災害への備えとして、すぐに取り組めることには、どのようなことがあるのでしょうか。私たちの班では、二つ考えました。一つ目は、「家族防災会議」をすることです。災害時は、けい帯電話などが使用できなくなることがあるので、その時には、災害伝言ダイヤルを利用することを決めておきます。また、家族が仕事や学校でばらばらになっている時の避難についても、まず、[B]ことを確かめておくことが大切です。二つ目は、【資料2】のように、自分が住んでいる町の防災マップを作ることです。

【資料1】何を参考に避難の判断をするのか



(平成29年大分県防災調査をもとに作成)

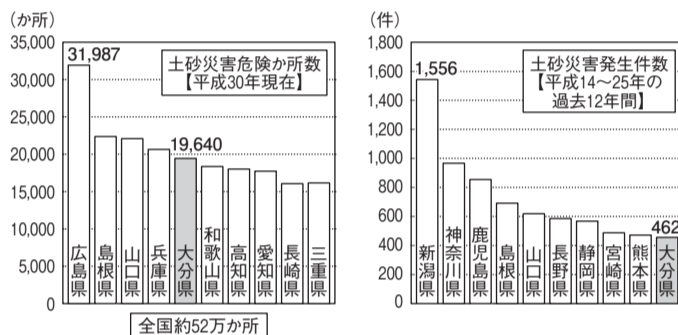
【資料2】防災マップの作成例



直美：大分県でも地震や大雨による土砂災害がここ数年の間、毎年のように起きているよ。この先もいつどんな災害が起こるかわからないから、ふだんからしっかり備えておくことが大切だと思わ。

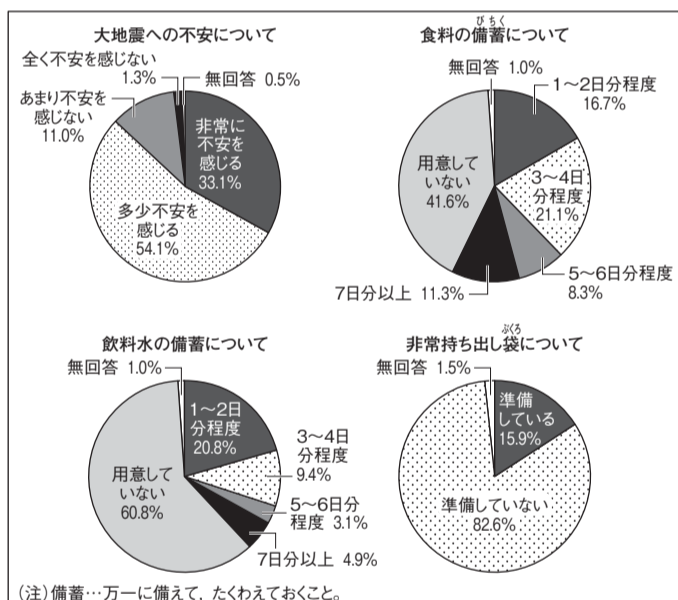
先生：【資料3】は、「土砂災害危険か所数」と「土砂災害発生件数」が多い都道府県10県が示されています。【資料4】は、以前行われた「県民の地震等の災害に対する意識調査」の結果です。調査結果を見て、県民の防災意識の薄さについて危機を感じていました。その後、熊本・大分地震などがあったので、県民の防災意識も変わっているといいですね。

【資料3】土砂災害の危険か所数と発生件数



(大分県の気象と災害に関する資料)をもとに作成

【資料4】県民の地震等の災害に対する意識調査



(注)備蓄…万が一に備えて、たくわえておくこと。(平成21年度「第1回地震減災に関する県民意識調査」をもとに作成)